

島根女子短期大学生の衣生活の実態について

野 津 哲 子

(被服構成学研究室)

Investigation on the Wardrobe of the Students in Shimane Women's Junior College

Tetsuko NOTSU

I 緒 言

われわれの生活の要素である衣、食、住の三分野のうち、特に衣と住は近年国際的社会性をおびるに従い急激に変容している。また現代社会は情報化時代で、われわれの生活態度、考え方ことに衣生活においては、かなりの影響を与えていることは言うまでもない。一方繊維工業の著しい発展につれて、被服素材、染色および加工法などの多様性には、めまぐるしいものがある。情報化社会とコンピューターの導入によって、デザイン、裁断などが近代化し、ミシンの改良で縫製技術もかなり進歩した。さらに手軽で便利なものを求める現代の要求に応じて既製服の多様化、量産化などで購買する年代・階層も増加の傾向にある。特に若い世代においては、流行を追う傾向が顕著であることは否めない。衣生活を円滑に運営するためには、まず適当な衣生活設計が必要で、衝動買いなど無計画に所持量を増加すれば、管理能力の限界をこえ被服の機能を十分に発揮させることも不可能になる。従って被服の必要量は、その社会の経済的、文化的条件によって定まるものであるといわれている。そこで本研究は被服構成指導の立場から、新しい時代に即応した被服教育のあり方を見出すために、近い将来家庭生活を営むと思われる本学学生を対象に衣生活に関する実態調査を行った。今回はその衣生活の中で主要部分を占めている洋服を中心とする被服所持量、調製経路、購入場所、所持服の柄などについて結果をまとめたので報告する。

II 調査方法

調査対象は、島根県立島根女子短期大学学生262名について調査した。その内訳は次のようである。家政科食物専攻1年41名、家政科被服専攻1年40名、保育科1年50名で1学年の総数は131名。家政科食物専攻2年38名、家政科被服専攻2年40名、保育科2年53名で2学年の総数は131名。家政科食物専攻1年と2年の総数79名、家政科被服専攻1年と2年の総数80名、保育科1年と2年の総数103名で全体の総数は262名である。

調査時期は1979年6月～7月である。

調査事項および調査方法は次のようである。被服の所持量調査として、ブラウス、Tシャツ、スカート、ワンピース、ツーピース、アンサンブル、ブレザー、ズボン類、コート類、パジャマ、ネグリジェの11種の服種に大別し、さらに夏物、冬合物の季節別に区別した。そしてこれらの各服種の所持量、調製経路（既製、自家製、注文の3種に分類した）、購入場所（百貨店、専門店、洋品店の3種に分類した）、柄（無地、格子・縞・プリントの3種に分類した）、などについての設問項目による用紙を配布し各自に結果を記入させた。配布部数262部で回収率は100%であった。調査集計の方法は、服種別に分類しその所持量、調製経路、購入場所、所持服の柄などについて集計整理した。

III 結果および考察

1. 服種別所持量

第1表は洋服の服種別所持量を専攻別、学年別、全体について示したものである。まず全体の服種別所持量を季節別の夏物についてみると、Tシャツが11種の中では最も多く6.10枚、次いでスカートの5.38枚である。ブラウスは4.89枚、ワンピース1.76枚がおもなものである。冬合物についてみると、ブラウスが1位で7.23枚、2位がスカート5.97枚、3位ズボン類2.69枚の順であった。

各専攻別に比較してみると、食物専攻の学生が他専攻学生に比べて多く所持している服種は、夏物のブラウス約0.30枚、冬合物のスカート約1.60枚を多く所持している。被服専攻学生の多い服種は、冬合物のワンピースで他専攻学生より約0.60枚多く所持している。保育科学生の多い服種は夏物のTシャツで他専攻学生より約0.30枚多く所持している。

学年別平均の夏物のTシャツについてみると、2年生が1年生より0.57枚多く、次いでスカート0.98枚、ブラウス0.92枚、ワンピース0.32枚の順に多く所持している。冬合物のブラウスについてみると、2年生は1年生より1.41枚多く所持し、次いでスカート1.28枚、Tシャツ0.52枚多く所持している。ブラウス、Tシャツ、スカート類が特に多いのは着用範囲が広く便利で、経済上の面からも、まず合理的な衣生活経営といえよう。

季節別における夏物と冬合物について専攻別に考察すると、食物専攻学生は冬合物の所持枚数は夏物より5.14枚多く所持している。同様に被服専攻学生、保育科学生は、それぞれ3.87枚、2.77枚と冬合物が多い。夏物、冬合物をあわせた所持総数は、食物専攻学生50.68枚で最も多く、次いで保育科学生50.21枚、被服専攻学生50.17枚の順で各専攻間の有意性は認められなかった。

学年別に考察してみると、夏物、冬合物ともに2年生が1年生より、それぞれ2.87枚、5.66枚多く所持している。高校を卒業して短大に入学後間もない1年生との差は当然の結果といえよう。1年生、2年生ともに夏物に比べて冬合物の総所持量の多いことが顕著にあらわれている。

全体の総所持量についてみても、冬合物の方が4.21枚夏物より多く所持している。これは特に春、秋、冬の3シーズンに渡って着用するため自然に多くなったものと思われる。

以上のことから、Tシャツは夏物に特に多く、冬合物はズボン類、ブレザー、コート類、ツーピース

などが多かった。ブラウス、スカートはどのシーズンにも平均的な使用がなされている。

2. 最高・最低所持量

最高・最低所持量については第2表に示す通りである。

専攻別にみると、食物専攻学生で最高所持量の数値の高い服種は、夏物のブラウス15枚、Tシャツ15枚、スカート15枚、ワンピース7枚、ズボン類6枚、パジャマ6枚、ツーピース4枚。冬合物のブラウス22枚、スカート16枚、ズボン類7枚、パジャマ6枚、Tシャツ5枚、コート類5枚、ワンピース4枚、ツーピース4枚、ブレザー4枚となっている。最低所持量についてみると、夏物のブラウス1枚、Tシャツ1枚、その他の服種はすべて0枚となっている。同様に被服専攻学生で最高所持量の数値の高い服種は、夏物のTシャツ21枚、ブラウス12枚、スカート8枚、ズボン類8枚、パジャマ7枚、ワンピース5枚、ネグリジェ5枚、ブレザー3枚。冬合物のブラウス20枚、Tシャツ11枚、ズボン類10枚、スカート9枚、コート類6枚、ワンピース5枚、ツーピース5枚、ブレザー5枚、パジャマ5枚、ネグリジェ5枚、アンサンブル4枚の順となっている。最低所持量については、夏物Tシャツ3枚、スカート2枚、ブラウス1枚、その他の服種は0枚である。同様に冬合物のブラウス3枚、スカート1枚、Tシャツ1枚、ズボン類1枚、その他の服種は0枚である。保育科学生で最高所持量の数値の高い服種は夏物のTシャツ20枚、ブラウス11枚、スカート11枚、ズボン類8枚、ワンピース7枚、パジャマ4枚である。冬合物は次のようである。スカート25枚、ブラウス20枚、Tシャツ12枚、ズボン類11枚、アンサンブル7枚、ワンピース5枚、コート類5枚、パジャマ5枚、ネグリジェ5枚、ブレザー4枚などがおもなものである。最低所持量の夏物についてみると、ブラウス1枚、スカート1枚、Tシャツ1枚、その他の服種は0枚である。冬合物をみると、ブラウス3枚、スカート1枚、その他の服種は0枚であった。最高所持量で特に専攻別のばらつきが大きかった服種は、Tシャツ、スカートで、最低所持量の服種ではブラウスであった。

学年別で考察すると、1年生で最高所持量の高い服種は夏物の場合でTシャツ、スカート、それぞれ15枚、次いでブラウス12枚、ズボン類8枚、ワンピース7枚、パジャマ5枚、ネグリジェ5枚、ツーピ

ース4枚、ブレザー3枚である。冬合物の場合はスカート25枚、ブラウス12枚、Tシャツ8枚、ズボン類7枚、コート類6枚、ブレザー5枚、パジャマ5枚、ネグリジェ5枚、ツーピース4枚となっている。最低所持量の服種は、夏物の場合ブラウス1枚、Tシャツ1枚、その他の服種は0枚。冬合物の場合は全服種とも0枚であった。2年生で最高所持量の数値の高い服種は夏物の場合Tシャツ21枚、ブラウス15枚、スカート11枚、ズボン類8枚、ワンピース7枚、パジャマ7枚、ネグリジェ3枚、ツーピース3枚。冬合物の場合ブラウス22枚、スカート15枚、Tシャツ12枚、ズボン類11枚、アンサンブル7枚、パジャマ6枚、ワンピース5枚、ツーピース5枚、コート類5枚、ブレザー4枚、ネグリジェ4枚であった。最低所持量の服種については、夏物の場合でTシャツ2枚、ブラウス1枚、スカート1枚、その他の服種は0枚。冬合物の場合ブラウス3枚、スカート1枚、その他の服種は0枚であった。最高所持量の学年別のばらつきが特に大きい服種は、ブラウス、スカート、Tシャツ。最低所持量の服種ではブラウスであった。最高・最低所持量とも2年生の方が高い数値を占めている。

全体について考察すると、夏物の場合最高所持量の高い数値を占めた服種はTシャツ21枚、ブラウス15枚、スカート15枚、ズボン類8枚、ワンピース7枚、パジャマ7枚、ネグリジェ5枚、ツーピース4枚、ブレザー3枚、コート類2枚、アンサンブル2枚。冬合物の場合スカート25枚、ブラウス22枚、Tシャツ12枚、ズボン類11枚、アンサンブル7枚、コート類6枚、パジャマ6枚、ワンピース5枚、ブレザー5枚、ネグリジェ5枚であった。最低所持量の夏物の場合の服種はブラウス1枚、Tシャツ1枚、その他の服種は0枚。冬合物の場合全服種とも0枚という結果になっている。このように最高所持量と最低所持量間に大きな差異があるのは、経済的なものと、個人の嗜好的相違などによるものが考えられる。高校を卒業して、短大に入学後間もない学生の被服内容の主なもの、ブラウス、Tシャツ、スカート、ワンピース、ツーピース、ズボン類、パジャマである。以上述べた服種1人当りの平均所持量の最高は各服種とも5枚以上となっている。即ちこれらの服種が被服生活の主体をなしているといえよう。特にブラウス、Tシャツ、スカート、ズボン類、パジャマは根強い流行と実用性でスリーシーズンに

定着している感がある。また若者のジーパンは平常着として根をおろしたので、ズボン類の所持量が多くなっているものと思われる。ブラウス、スカートの最高所持量の値が高いのは季節の区別なく年中着用されるものであるからであろう。使用頻度、被服管理面などを考えた時、趣味、嗜好には個人差がないと思われたパジャマ、ネグリジェにも個人差のあることもわかった。所持量には制限がないため一般的に多すぎる傾向もみられた。ツーピース、ワンピースの最高所持量の少ないのは、体に比較的合せにくい服種であること、またデザインの好みも複雑なために画一化されにくいのではないかと思われる。

3. 調製経路

第3表、第1図は調製経路を服種別に示したものである。服種別における専攻別既製のブラウスについて比較してみると、保育科学生11.92枚と高い値を占め、次いで食物専攻学生の11.53枚、被服専攻学生10.76枚の順に多く利用されている。同様に自家製についてみると被服専攻学生の0.97枚が最も多く、次いで食物専攻学生の0.60枚、保育科学生の0.21枚となっている。注文についてみると、被服専攻学生0.20枚、保育科学生0.11枚、食物専攻学生0枚となっている。Tシャツについてみると、各専攻学生とも既製がほとんどで約8.00枚、注文、自家製はごく少ない枚数であった。スカートの既製についてみると、食物専攻学生が最も多く11.64枚、次いで保育科学生の10.43枚、被服専攻学生8.47枚である。自家製は次のようである。被服専攻学生が最も多く2.41枚を占め、次いで食物専攻学生の0.53枚、保育科学生0.47枚であった。注文についてみると第1位は被服専攻学生0.25枚、次いで保育科学生0.15枚、食物専攻学生の0.03枚の順であった。ワンピースについてみると、各専攻とも既製の利用が高く、食物専攻学生2.38枚、保育科学生2.35枚、被服専攻学生2.34枚である。自家製をみると、被服専攻学生が最も高い値を占め0.67枚、次いで食物専攻学生0.28枚、保育科学生0.25枚である。注文の第1位は被服専攻学生で0.08枚、次いで食物専攻学生0.07枚、保育科学生0.05枚である。ツーピースの既製の利用の高いのは、食物専攻学生0.93枚、被服専攻学生0.86枚、保育科学生0.77枚の順であった。自家製についてみると、首位は被服専攻学生0.05枚、他の専攻学生はそれぞれ0.03枚である。注文の首位は保育科学生で0.07枚、食物専攻学生0.05枚、被服専攻学生0.03枚である。アンサ

ンプルの既製は、被服専攻学生の0.49枚が最も多く、次いで保育科学生の0.48枚、食物専攻学生の0.50枚。注文をみると保育科学生の0.02枚、他専攻学生は0枚である。ブレザーの既製についてみると、被服専攻学生、保育科学生とも1.76枚を占め、次いで食物専攻学生の1.74枚の順であった。自家製は各専攻とも大差なく食物、被服専攻学生0.03枚、保育科学生0.02枚である。注文は食物専攻学生0.07枚、被服専攻学生0.04枚、保育科学生0.03枚である。ズボン類の既製で一番高い値を占めたのは、被服専攻学生で4.01枚、次いで保育科学生3.67枚、食物専攻学生3.43枚であった。自家製をみると食物専攻学生0.10枚、被服専攻学生0.04枚、保育科学生0枚となっている。注文をみると保育科学生0.04枚、被服専攻学生0.03枚、食物専攻学生0枚である。コート類の既製をみると食物専攻学生2.21枚で最も多く利用し、次いで被服専攻学生2.18枚、保育科学生2.09枚の順である。自家製をみると被服専攻学生0.06枚で、他専攻学生はともに0枚である。注文をみると被服専攻学生0.08枚、保育科学生0.05枚、食物専攻学生0.02枚である。パジャマの既製についてみると、食物専攻学生4.66枚、被服専攻学生4.39枚、保育科学生4.33枚である。自家製についてみると、食物専攻学生0.40枚、被服専攻学生0.35枚、保育科学生0.20枚である。注文をみると保育科学生0.06枚、被服専攻学生0.05枚、食物専攻学生0.02枚である。ネグリジェの既製をみると、保育科学生1.76枚、被服専攻学生1.46枚、食物専攻学生1.33枚。自家製をみると被服専攻学生0.08枚、食物専攻学生0.02枚、保育科学生0.01枚の順であった。

ブラウス、スカートの自家製が多いのは、縫製が比較的簡単であるため自作や家庭製作が多いことなどによるものと考えられる。最近では既製のスカートも、サイズ・デザインなど多種多様のものが数多く売り出されているため、今後はブラウスとともに利用度は高くなるものと考えられている。ツーピースブレザー、ズボン類は注文が多い服種であることがわかった。これらの服種は外出用、通学用がほとんどであるため、現段階では既製服では充分満足できない点があるためと考えられる。既製の占める割合が目立って多く、家庭製作がずっと少なくなっていることは、時代の流れを示すものと思われる。既製服の発展は生活の能率化の上から考察すれば望ましいことで、大いに期待をよせるものである。被服専攻

学生のブラウス、スカート、ワンピース、ツーピースの自家製の多いのは、専攻の特徴を示しているものと思われる。即ち被服構成実習洋裁の学習を通して身につけた技術を日常の衣生活に生かし、自分に気に入った布を購入し、さらにデザインを考えながら、楽しんで製作したものと思われる。ブラウス・スカートの2種の所持量のうちそれぞれ2枚は自作したという実態の結果も占められていた。

専攻別における各服種の調製経路の全体に対する割合を食物専攻学生について服種別に考察すると次のようである。1)ブラウス…既製23.80%、自家製29.90%、注文0%。2)Tシャツ…既製16.60%、自家製、注文とも0%。3)スカート…既製24.10%、自家製26.40%、注文11.50%。4)ワンピース…既製4.90%、自家製13.90%、注文26.90%。5)ツーピース…既製1.94%、自家製1.50%、注文19.32%。6)アンサンブル…既製1.03%、自家製1.00%、注文0%。7)ブレザー…既製3.60%、自家製1.50%、注文26.90%。8)ズボン類…既製7.09%、自家製4.90%、注文0%。9)コート類…既製4.57%、自家製0%、注文7.69%。10)パジャマ…既製9.63%、自家製19.90%、注文7.69%。11)ネグリジェ…既製2.74%、自家製1.00%、注文0%。全体の既製の占める割合は95.50%、自家製4.00%、注文0.50%である。

被服専攻学生の結果は次に示す通りである。1)ブラウス…既製24.10%、自家製20.80%、注文25.00%。2)Tシャツ…既製17.90%、自家製0%、注文5.00%。3)スカート…既製18.90%、自家製51.60%、注文31.30%。4)ワンピース…既製5.20%、自家製14.30%、注文10.00%。5)ツーピース…既製1.92%、自家製1.07%、注文3.75%。6)アンサンブル…既製1.10%、自家製0.21%、注文0%。7)ブレザー…既製3.94%、自家製0.64%、注文5.00%。8)ズボン類…既製8.97%、自家製0.86%、注文3.75%。9)コート類…既製4.88%、自家製1.29%、注文10.00%。10)パジャマ…既製9.82%、自家製7.49%、注文6.20%。11)ネグリジェ…既製3.27%、自家製1.74%、注文0%。

全体の既製の占める割合は89.10%、自家製9.30%、注文1.60%である。

保育科学生の結果は次の通りである。1)ブラウス…既製24.70%、自家製22.50%、注文18.00%。2)Tシャツ…既製18.30%、自家製0.83%、注文4.90%。3)スカート…既製21.50%、自家製49.17%、注文24.60%。4)ワンピース…既製4.90%、自家製20.83

%, 注文8.20%。5)ツーピース…既製1.60%, 自家製2.50%, 注文11.48%。6)アンサンブル…既製0.99%, 自家製0%, 注文3.28%。7)ブレザー…既製3.64%, 自家製1.67%, 注文4.92%。8)ズボン類…既製7.58%, 自家製0%, 注文6.56%。9)コート類…既製4.32%, 自家製0%, 注文8.20%。10)パジャマ…既製8.95%, 自家製1.67%, 注文9.86%。11)ネグリジェ…既製3.52%, 自家製0.83%, 注文0%。

全体の既製の占める割合は96.40%, 自家製2.40%, 注文1.20%である。

全体における季節別の夏物の場合についてみると、既製が最も高率で92.70%を占め、次いで自家製6.70%, 注文0.60%である。冬合物の場合は既製が94.40%と優位な値を占め、次いで自家製4.40%注文1.20%であった。以上のことから季節に関係なく、既製服の利用の高いことがわかった。

服種別における学年別の既製ブラウスについて考察すると、2年生は1年生より2.29枚多く所持している。同様に自家製においても0.17枚多い。注文は1年生が2年生より0.13枚多く所持している。Tシャツの既製についてみると、2年生が1年生より1.13枚多く、自家製においても0.61枚多い。注文は1年生が0.05枚多く所持している。スカートの既製においては2年生が1年生より2.06枚多く自家製も0.35枚多く所持している。注文は1年生の方が0.14枚多く所持している。ワンピースをみると、既製は2年生が0.92枚多く、自家製も0.15枚多い。注文は1年生が2年生より0.02枚多い。ツーピースの既製は2年生が1年生より0.03枚多い。自家製は1年生が2年生より0.02枚多い、注文も1年生が0.05枚多く所持している。アンサンブルの既製は、2年生が1年生より0.22枚多く、自家製は1年生が2年生より0.02枚多い、注文は1年生、2年生とも0.01枚である。ブレザーの既製は2年生が1年生より0.08枚多い、自家製は1年生が2年生より0.03枚多い。注文についても1年生が0.04枚多く所持している。ズボン類の既製は2年生が1年生より0.68枚多い。自家製は1年生が2年生より0.07枚多い。注文も1年生が0.05枚多く所持している。コート類の既製は2年生が1年生より0.24枚多い、自家製についても2年生が0.01枚多い。注文は1年生が0.08枚多く所持している。パジャマの既製は2年生が1年生より0.26枚多い。自家製も2年生が0.10枚多い。注文は1年生が2年生より0.07枚多く所持している。ネグリジェの既製

は2年生が1年生より0.35枚多く、自家製についても2年生が0.02枚多い。注文は1年生、2年生とも0枚である。

以上のことから全服種における全体の既製の占める割合は2年生が94.20%, 1年生93.30%で僅かながら2年生が多く利用している。自家製をみると2年生5.30%, 1年生4.80%で2年生が僅かに優位である。注文は1年生1.90%, 2年生0.50%で、1年生が1.40%多く利用していることがわかった。

季節の区別なく11種の服種全体の調製経路別の占める割合を服種別に考察すると次のような結果である。1)ブラウス…既製24.24%, 自家製21.90%, 注文0%。2)Tシャツ…既製17.72%, 自家製0%, 注文6.38%。3)スカート…既製21.36%, 自家製44.10%, 注文31.90%。4)ワンピース…既製5.00%, 自家製15.60%, 注文12.82%。5)ツーピース…既製1.78%, 自家製1.60%, 注文10.64%。6)アンサンブル…既製1.09%, 自家製0.39%, 注文2.10%。7)ブレザー…既製3.73%, 自家製1.20%, 注文8.50%。8)ズボン類…既製7.88%, 自家製1.56%, 注文6.38%。9)コート類…既製4.56%, 自家製0.78%, 注文10.64%。10)パジャマ…既製9.30%, 自家製11.70%, 注文10.64%。11)ネグリジェ…既製3.34%, 自家製1.17%, 注文0%。

全服種における全体の既製の占める割合は94.00%, 自家製5.10%, 注文0.90%である。

以上のことから、ブラウス、スカート、Tシャツ、ズボン類が他の服種に比べて、既製の利用率が高く占められているのは、若い人が流行に敏感であること、また手軽に買えることも魅力の一つとなって、利用の高い原因になっていると思われる。一方流行の変化が激しいため、常に死蔵量が多くなり、次第に所持量も増加することも考えられる。ブラウス、Tシャツ、スカートは体に合せやすく、量産が可能であることなど様々な要因によって既製品化されやすいことも考慮しなければならない問題であろう。自家製の多い服種は比較的縫製が容易なものであり、少ないものは、既製の市販品が豊富に出廻っていることが示唆できる。注文の多い服種は、ワンピース、ツーピース、コート類である。注文の多い理由は、外出着的な要素の多いものであり、より好みに合ったデザインが要求されるので注文が多くなっているものと思われる。

4. 購入場所

第1表 服種別所持量

所持数 専攻別・学年別 人数 季節別 最高・最低 服種	1人当り平均所持数(枚)											
	食 物		被 服		保 育		1 年		2 年		全 体	
	79		80		103		131		131		262	
	夏	冬・合	夏	冬・合	夏	冬・合	夏	冬・合	夏	冬・合	夏	冬・合
ブラウス	5.14	7.00	4.75	7.19	4.85	7.38	4.45	6.56	5.37	7.97	4.89	7.23
Tシャツ	5.95	2.09	5.97	2.05	6.28	2.60	5.83	2.05	6.40	2.57	6.10	2.29
スカート	5.02	7.19	5.59	5.53	5.42	5.63	4.92	5.37	5.90	6.65	5.38	5.97
ワンピース	1.83	0.90	1.66	1.43	1.80	0.85	1.61	0.71	1.93	1.44	1.76	1.05
ツーピース	0.22	0.79	0.24	0.70	0.26	0.62	0.21	0.74	0.28	0.63	0.24	0.69
アンサンブル	0.09	0.43	0.09	0.43	0.14	0.36	0.10	0.31	0.12	0.50	0.11	0.40
ブレザー	0.22	1.62	0.25	1.57	0.27	1.54	0.29	1.30	0.22	1.60	0.26	1.57
ズボン類	0.90	2.64	1.20	2.87	1.13	2.58	1.12	2.40	1.07	3.01	1.10	2.69
コート類	0.26	1.97	0.33	1.99	0.33	1.80	0.35	1.78	0.27	2.04	0.31	1.90
パジャマ	2.43	2.64	2.32	2.48	2.35	2.26	2.30	2.34	2.42	2.50	1.83	2.41
ネグリジェ	0.71	0.64	0.75	0.78	0.90	0.87	0.77	0.64	0.84	0.95	0.80	0.79
総計	22.77	27.91	23.15	27.02	23.72	26.49	21.95	24.20	24.82	29.86	22.78	26.99

服種別、場所別購入場所の割合の結果は第2図、第3図に示す通りである。各服種について考察すると次のようである。1)ブラウス…夏物と冬合物との差は、ほとんど認められず、その平均値は百貨店47%、洋品店34%、専門店19%の順となっている。2)Tシャツ…夏物と冬合物との差は、ほとんどなくその平均値は、百貨店54%、洋品店33%、専門店13%の順で利用されている。3)スカート…夏物、冬合物間にはほとんど差はなく、百貨店46%、洋品店32%、専門店22%の順である。4)ワンピース…夏物は百貨店35%、専門店28%、冬合物

第2表 服種別最高・最低所持量

(1人当り(枚))

所持数 専攻別・学年別 人数 季節別 最高・最低 服種	食 物		被 服		保 育		1 年		2 年		全 体													
	79		80		103		131		131		262													
	夏	冬・合	夏	冬・合	夏	冬・合	夏	冬・合	夏	冬・合	夏	冬・合												
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低												
ブラウス	15	1	22	0	12	1	20	3	11	1	20	3	12	1	12	0	15	1	22	3	15	1	22	0
Tシャツ	15	1	5	0	21	3	11	1	20	1	12	0	15	1	8	0	21	2	12	0	21	1	12	0
スカート	15	0	16	0	8	2	9	2	11	1	25	1	15	0	25	0	11	1	15	1	15	0	25	0
ワンピース	7	0	4	0	5	0	5	0	7	0	5	0	7	0	3	0	7	0	5	0	7	0	5	0
ツーピース	4	0	4	0	2	0	5	0	3	0	3	0	4	0	4	0	3	0	5	0	4	0	5	0
アンサンブル	2	0	3	0	2	0	4	0	2	0	7	0	2	0	3	0	2	0	7	0	2	0	7	0
ブレザー	2	0	4	0	3	0	5	0	2	0	4	0	3	0	5	0	2	0	4	0	3	0	5	0
ズボン類	6	0	7	0	8	0	10	1	8	0	11	0	8	0	7	0	8	0	11	0	8	0	11	0
コート類	1	0	5	0	2	0	6	0	2	0	5	0	1	0	6	0	2	0	5	0	2	0	6	0
パジャマ	6	0	6	0	7	0	5	0	4	0	5	0	5	0	5	0	7	0	6	0	7	0	6	0
ネグリジェ	3	0	3	0	5	0	5	0	3	0	5	0	5	0	5	0	3	0	4	0	5	0	5	0

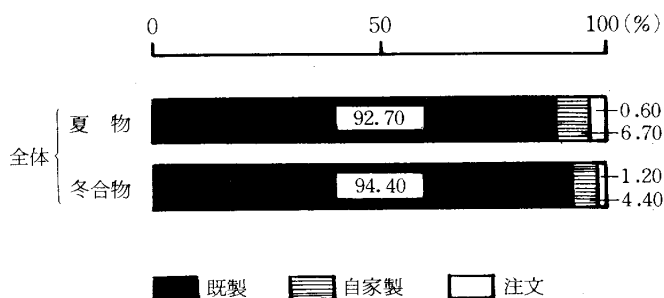
第3表 服種別調製経路

所持数 服種別 人数 調査法	1人当り平均所持数(枚)																	
	食物			被服			保育			1年			2年			全体		
	79			80			103			131			131			262		
	既製	自家製	注文	既製	自家製	注文	既製	自家製	注文	既製	自家製	注文	既製	自家製	注文	既製	自家製	注文
ブラウス	11.53	0.60	0	10.76	0.97	0.20	11.92	0.21	0.11	10.36	0.48	0.17	12.65	0.65	0.04	11.44	0.56	0
Tシャツ	8.03	0	0	7.99	0	0.04	8.84	0.01	0.03	7.83	0	0.05	8.96	0.01	0	8.36	0	0.03
スカート	11.64	0.53	0.03	8.47	2.41	0.25	10.43	0.47	0.15	9.10	0.96	0.22	11.16	1.31	0.08	10.08	1.13	0.15
ワンピース	2.38	0.28	0.07	2.34	0.67	0.08	2.35	0.25	0.05	1.92	0.33	0.07	2.84	0.48	0.05	2.36	0.40	0.06
ツーピース	0.93	0.03	0.05	0.86	0.05	0.03	0.77	0.03	0.07	0.83	0.05	0.07	0.86	0.03	0.03	0.84	0.04	0.05
アンサンブル	0.5	0.02	0	0.49	0.01	0	0.48	0	0.02	0.39	0.02	0.01	0.61	0	0.01	0.49	0.01	0.01
ブレザー	1.74	0.03	0.07	1.76	0.03	0.04	1.76	0.02	0.03	1.72	0.04	0.06	1.80	0.01	0.02	1.76	0.03	0.04
ズボン類	3.43	0.10	0	4.01	0.04	0.03	3.67	0	0.04	3.40	0.07	0.05	4.08	0	0	3.72	0.04	0.03
コート類	2.21	0	0.02	2.18	0.06	0.08	2.09	0	0.05	2.03	0.02	0.08	2.27	0.03	0.02	2.15	0.02	0.05
パジャマ	4.66	0.40	0.02	4.39	0.35	0.05	4.33	0.20	0.06	4.32	0.25	0.08	4.58	0.35	0.01	4.43	0.30	0.05
ネグリジェ	1.33	0.02	0	1.46	0.08	0	1.76	0.01	0	1.39	0.02	0	1.74	0.04	0	1.56	0.03	0
総計	48.38	2.01	0.26	44.71	4.67	0.80	48.40	1.20	0.61	43.29	2.24	0.86	51.55	2.91	0.26	47.19	2.56	0.47

は専門店38%、百貨店25%となっていて、冬合物は夏物に比べて専門店の占める割合が大きく、その分だけ百貨店の割合が小さくなっている。洋品店は夏物、冬合物ともに37%を占めている。夏物、冬合物の全体の平均は、洋品店37%、専門店33%、百貨店30%の順である。

5) ツーピース…夏物と冬合物との差はほとんどなく、専門店48%、洋品店31%、百貨店21%の順である。

6) アンサンブル…夏物は専門店41%、百貨店30%、冬合物は専門店48%、百貨店23%とな

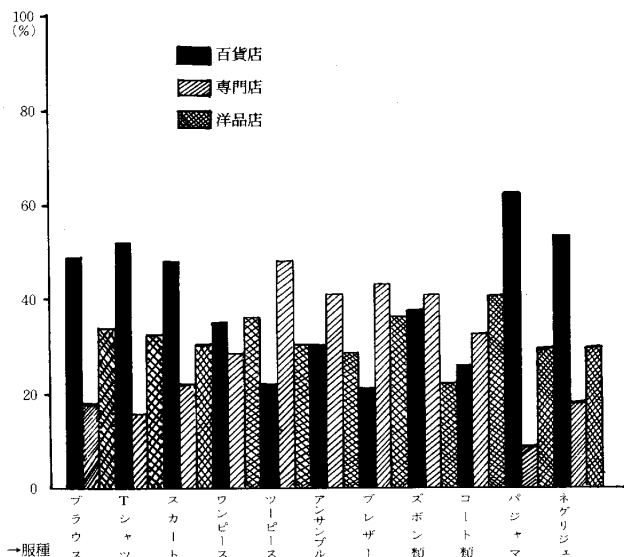


第1図 既製、自家製、注文別の割合(季節別)

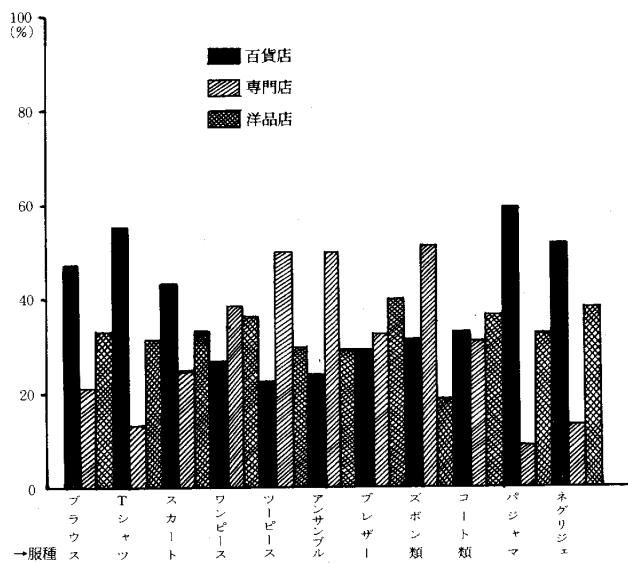
ていて、冬合物は夏物に比べて専門店の割合が大きく、その分だけ百貨店の割合が減少している。また洋品店は夏物、冬合物ともに29%を占めている。夏物、冬合物の全体の平均は、専門店45%、洋品店29%、百貨店26%の順である。

7) ブレザー…夏物は専門店43%、洋品店36%、百貨店21%、冬合物は洋品店39%、専門店32%、百貨店29%の順である。夏物、冬合物の全体の平均は専門店37%、洋品店38%、百貨店25%である。

8) ズボン類…夏物は専門店41%、百貨店37%、洋品店22%、冬合物は専門店50%、百



第2図 服種別、場所別購入割合(夏)



第3図 服種別、場所別購入割合(冬・合)

貨店31%、洋品店19%となっている。夏物、冬合物のズボン類は、全服種の中で専門店の占める割合が最も大きく全体の45%、次いで百貨店34%、洋品店21%と最も小さい値を占めた。9)コート類…夏物は洋品店42%、百貨店26%、冬合物は洋品店36%、百貨店32%となっていて、冬合物は夏物に比べて百貨店の割合が大きく、その分だけ洋品店の占める割合が減少している。専門店は夏物、冬合物ともに32%を占めている。10)パジャマ…夏物、冬合物との差があまりなく、百貨店60%、洋品店31%、専門店9%の順である。パジャマは全服種の中で、百貨店の占める割合が最も大きく、専門店の占める割合は最も小さくなっている。11)ネグリジェ…夏物は百貨店53%、洋品店30%、専門店17%、冬合物は百貨店50%、洋品店37%、専門店13%となっている。

全服種を総合してみると、百貨店の利用が第1位で39%、次いで洋品店32%、専門店29%の順であった。百貨店が高率を占めているのは、専門店、洋品店に比べて客層が広く選択しやすいことによるものと推察される。洋品店はズボン類を除くすべての服種において、30%前後の割合で利用されている。これは洋品店が日常着からフォーマルウェアまでの様々な種類の商品を数多く置いていることによるものと推察される。

百貨店の割合が最も大きくなっている服種は、夏物、冬合物のブラウス、Tシャツ、スカート、パジャマ、ネグリジェである。専門店利用の割合が最も大きい服種は冬合物のワンピース、ツーピース、アンサンブル、夏物のブレザー、ズボン類である。洋品店利用の割合が最も大きい服種は、夏物のワンピース、冬合物のブレザー、コート類である。

ブラウス、Tシャツ、スカートは、主に日常着として着用されるものであるから、衣生活設計を立案して購入するようなことはなく、他の目的で百貨店に行った時に、衝動的に購入することが多いと思われる。パジャマ、ネグリジェは近年下着の専門店にも置かれていて、その商品はデザインに凝ったものが多く、高価である。パジャマ、ネグリジェには主に着心地など実用的な機能が要求されるので、専門店よりも安価で実用的な性質をもつ商品の多い百貨店で購入する人が多いように思われる。

冬合物のワンピース、ツーピース、アンサンブル、夏物のブレザーは、いずれも外出着またはフォーマルウェアとして着用するものであり、普通、高価で

1人当りの所持量も少なく、耐用年数が比較的長いものである。従って必要になった時に、慎重に選択し購入するものと思われる。購入場所はブティックやフォーマルウェア専門の店などで購入することが多いと思われる。

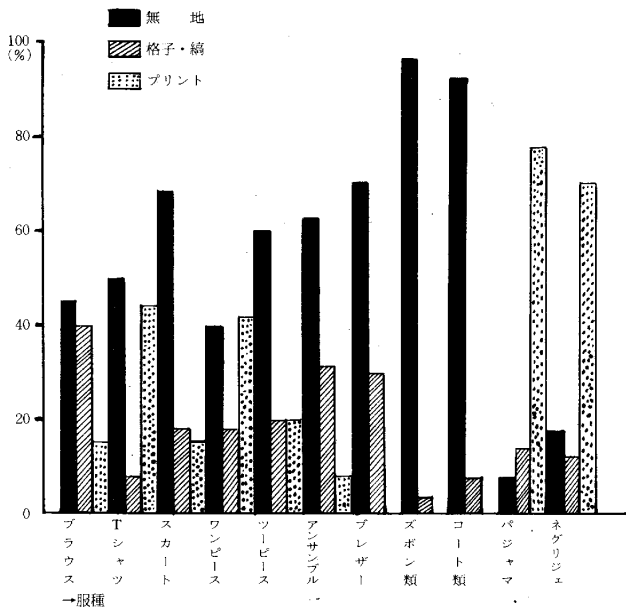
ズボン類について考察すると、短大生の年代では、ズボン類とはジーパンを意味していると思われる。ジーパンは特にサイズが合うことが大切である。従ってサイズや色の種類が多いジーンズショップで購入する人が多いと思われる。

夏物のワンピースは、学生の場合特に外出着として着用したり、ホームドレスとしても着用することが多いようである。これは冬合物にはみられない特徴的なことである。外出着として着用するものは、主に洋品店で購入し、ホームドレスとして着用するものは主に百貨店で購入する傾向が強くみられ、冬合物のワンピースよりも、夏物のワンピースの方が百貨店の占める割合が多くなっている傾向がわかった。冬合物のブレザー、コート類は、いずれも主に外出着として着用し、1人当りの所持量も少なく、耐用年数が長く、比較的高価である。特にコート類は、全服種の中でも最も値段が高く、ある時期になると、着用頻度が非常に高くなる服種と思われる。従って冬合物のブレザー、コート類は慎重に衣生活設計を立案して、じっくり選んで自分の一番気に入った商品を購入するものと思われる。購入場所は商品の種類が多く、落ち着いて選択できる洋品店で購入することが多いと思われる。以上のことをまとめると主に日常着として着用するものは、百貨店で購入する傾向が多いことがわかった。ただしズボン類は例外で、専門店で購入する傾向が強い。主に外出着、またはフォーマルウェアとして着用するものは専門店、もしくは洋品店で購入する傾向が強いということが推察できた。

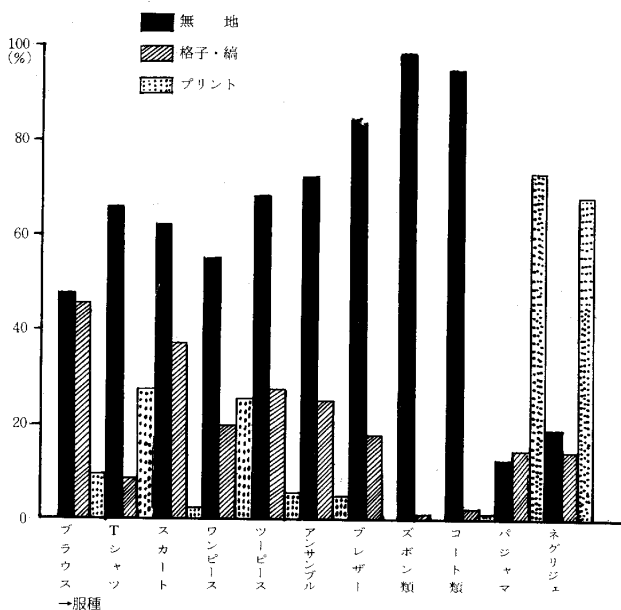
5. 所持服の柄

服種によって私たちの選ぶ柄には、どんな種類があるのか、ここでは所持服のうち11の服種について、特に多い柄を季節別にひとつ選んで○印をつけてもらう方法をとった。第4図、第5図には服種別、柄別の割合を第6図には全体における季節別、柄別の割合の結果を示した。各服種ごとに考察すると次のようである。1)ブラウス…夏物無地45%、格子・縞40%、プリント15%、冬合物無地46%、格子・縞44%、プリント10%。2)Tシャツ…夏物無地50%、プ

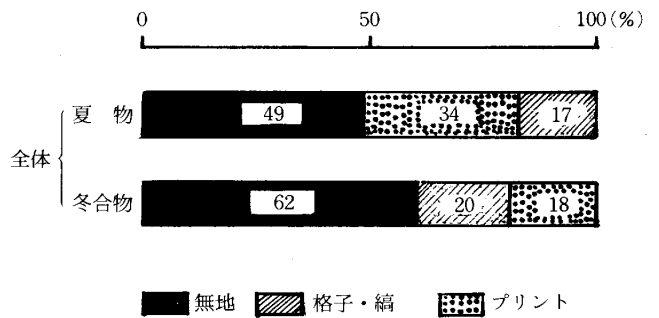
プリント43%，格子・縞7%，冬合物の無地66%，プリント26%，格子・縞8%。3)スカート…夏物無地67%，格子・縞18%，プリント15%，冬合物無地61%，格子・縞37%，プリント2%で，夏物に比べて格子・縞の割合が大きく，無地とプリントの割合は小さくなっている。4)ワンピース…夏物はプリント42%，無地40%，格子・縞18%。冬合物は無地55%，プリント25%，格子・縞20%となっている。冬合物は夏物に比べて，無地の割合が大きく，その分だけプリントの割合が小さくなっている。5)ツーピース…夏物は無地が60%，格子・縞20%，プリント20%



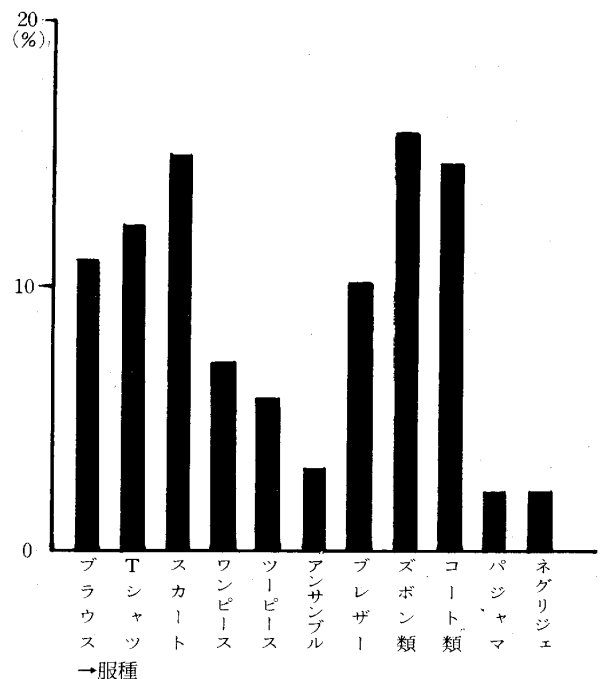
第4図 服種別柄別の割合(夏)



第5図 服種別柄別の割合(冬・合)



第6図 季節別・柄別の割合



第7図 無地における各服種の割合

と同率を占めている。冬合物は無地69%，格子・縞26%，プリント5%となっている。6)アンサンブル…夏物無地62%，格子・縞31%，プリント7%となっている。冬合物は無地71%，格子・縞26%，プリント3%である。7)プレザー…夏物無地70%，格子・縞30%，冬合物無地83%，格子・縞17%となっている。8)ズボン類…無地96%，格子・縞4%，冬合物無地99%，格子・縞1%である。9)コート類…夏物無地92%，格子・縞8%。冬合物は無地97%，格子・縞2%，プリント1%となっている。10)パジャマ…夏物プリント78%，格子・縞14%，無地8%，冬合物はプリント72%，格子・縞15%，無地13%，11)ネグリジェ…夏物プリント70%，無地18%，格子・縞12%冬合物プリント68%，無地18%，格子・縞14%である。

季節別，柄別の割合を考察すると，夏物では無地

49%, プリント34%, 格子・縞17%を占めている。冬合物では無地62%, 格子・縞20%, プリント18%, となっている。全体的にみるとパジャマ, ネグリジェにプリントが多いことを除けば他の服種は大部分無地が多い。夏物と冬合物を比較すると, 冬合物の方が無地が多く, プリントが少なくなっている。以上のことから夏物における無地の利用の多かった各服種の割合は, ズボン類96%, スカート67%, アンサンブル62%, ツーピース60%, Tシャツ50%, ブラウス45%, ワンピース40%であった。同様に冬合物では第1位がコート類の97%, 次いでズボン類96%, ブレザー83%, アンサンブル71%, ツーピース69%, Tシャツ66%, スカート61%, ツーピース55%, ブラウス46%の順であった。

夏物, 冬合物に利用の多かった無地における各服種の割合を第7図に示した。第7図より第1位はズボン類の16%, 次いでスカート15%, コート類14%, Tシャツ13%, ブラウス11%, ブレザー10%, ワンピース7%, ツーピース6%, アンサンブル4%, パジャマ2%, ネグリジェ2%の順であった。

無地は他の服種との組合せが容易で, 柄物に比べて, あきがこないという利点から, どの服種においても利用されているのではなかろうか。Tシャツ, ワンピースは他の服種に比べて, プリント柄が多かった。Tシャツの場合はユーモアのあるプリントや, カラフルで, かわいらしいプリント, レタリング文字のプリントなど着用して楽しめる点から多く利用されている。また夏のワンピースは, 大胆な柄のホームウェアなどの利用からプリント柄が好まれている。ツーピース, アンサンブル, ブレザーは主に外出着として着用し, 日常数多く所持できない服種である。従って組合せのきく無地が多くなっている傾向がうかがえた。ズボン類を短大生が所持していると答えれば大部分ジーンズをさしているのだから, 無地が高率を占めているのは当然といえよう。コート類は耐用年数が長く, あきのこないものが好まれるため, やはり無地の占める割合が多かった。パジャマ, ネグリジェは他の服種と違って, あまり色彩やデザインの種類が豊富でないため, 楽しく着られるプリント柄が高率を占めたものと推察される。以上のことから外出着, フォーマルウェアとして着用するコート類, ブレザー, アンサンブル, ツーピースなどは無難な無地が多く, 日常着として着用されるブラウス, スカート, ワンピース, Tシャツは個性の生

かせるプリントや格子・縞が前述の服種よりも高率を占めたものと思われる。

IV 要 約

本学学生 262 名を対象とする衣服に関する実態調査を行った。その結果をまとめると次のようである。

1) 本学学生の被服内容の主なものは, ブラウス, Tシャツ, スカートで1人当たり平均所持量5枚以上を占めている。次いでワンピース, ズボン類, ブレザーが主なものである。従って学生は日常着としてブラウスとスカート, またはズボン類などのツーピース形式の軽快な服装をしていることが推察できた。1人当たりの最高所持量の数値の高い服種は, 夏物, 冬合物ともブラウス(夏物15枚, 冬合物22枚), Tシャツ(夏物21枚, 冬合物12枚), スカート(夏物15枚, 冬合物25枚)で最低所持量は夏物のブラウス, Tシャツが各々1枚, 他の服種は夏物, 冬合物とも0枚であった。従って最高と最低の開差が非常に大きかった。

2) 調製経路を全体的にみると既製の利用が最も多く94.0%を占め, 次いで自家製5.1%, 注文0.9%の順であった。学生の衣生活における既製服の利用度は高く, それに依存する割合が大きくなっていることが把握できた。

3) 購入場所は百貨店が高率を占め39%, 次いで洋品店32%, 専門店29%の順であった。各服種の用途によって購入場所が区別されており, 日常着は百貨店で, 外出着やフォーマルウェアは専門店で購入されていることがわかった。

4) 所持服全体における柄の中では無地が最も多く用いられ約62%を占めている。用途別にみると外出着, フォーマルウェアとして着用される服種は, 無地の占める割合が大きく, 日常着として着用される服種は着用嗜好が多く入るため柄物の占める割合が高くなっている。

今回の調査は短大生という, ごく限られた年齢層であっただけに他の年齢層との比較ができなかった。しかし専攻別, 学年別の違いなど興味ある傾向を知ることができた。学生の既製服購入態度は比較的合理性に富み, 常識的に選別していると思われる。反面各服種とも購入時の経済的意識が極めて低い点もうかがえた。これは経済面で親に依存していることが大きな要因であろうと思われる。

被服教育担当者としては, 以上の実態を考慮し広

い分野における被服教育ことに将来の衣生活設計にあわせた、衣生活の立案実行、基礎技術の必要性など実態を通して認識することができた。

本研究にあたり、調査にご協力いただいた本学学生に、あつくお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1)お茶の水女子大学家政学講座：被服構成学，光生館（1972）
- 2)高橋春子：被服構成学，建帛社（1975）
- 3)名倉光雄他 3 名：被服学概論，相川書房（1977）

（昭和59年 1 月31日受理）